

## アイデアをつかむために 2023年度のオススメの1冊

ことばに関する図書は、毎年刊行されています。2023年の前半(～7月)に刊行された図書を中心に、いくつか紹介します(一部、2022年刊行の図書も含まれます)。

日本語コンテストの応募に向けてアイデアをつかみたい人、身の回りのことばについて興味がある人、ふとしたことばの疑問になにかヒントが欲しい人——ぜひ、気になった本を探して、手に取ってみてください。新しい発見がきっとあるはずです!

このほかにも多くの図書があります。さらに深くことばについて知りたいという人は、より専門的な本を探してみてください。

2023 日本語学会中高生日本語研究コンテスト実行委員会

## 研究の方法を知るための1冊

『一語から始める小さな日本語学』(金澤 裕之・山内 博之 編、2022年、ひつじ書房)

「わーい！ 研究って楽しいな！」←本当にこんな風に言いますか？

感動詞「わーい」は実際の話言葉で使われているのだろうか？ 多くの小学生はなぜ「きっかり」を知らないのか？ 外来語「ヘイト」はどのように使われてきたのか？ 日本語研究者17人がふと疑問を感じた表現を、データに基づいてそれぞれ分析した研究ノート集です。一語にこだわる「小さな日本語学」のアイデアと発見が詰まった一冊です。

→ <関連テーマ> 日本語の研究方法

[出版社サイト](#) ← Click!

# アイデアをつかむための1冊

『日本語の発音はどう変わってきたか

—「てふてふ」から「ちょうちょう」へ、音声史の旅 (中公新書)』

(釘貫 亨、2023 年、中央公論新社)

**昔の日本語の発音はどうやって知ることができるんだろう？**

「母」は昔の日本語では「ファファ」だった！これは室町時代のなぞなどを見ることでわかります。みなさんが古文で悪戦苦闘したように、当時の日本語は今と大きく違っています。音声も、大きな変化を遂げてきました。それでは、どのように日本語の発音は変化してきたのでしょうか。本書は、日本語の音声の長い変化の旅路とその要因に迫る一冊です。

→ 〈関連テーマ〉 音声、歴史

[出版社サイト](#) ← Click!

『なぜ、おかしの名前はパピブペポが多いのか？

—言語学者、小学生の質問に本気で答える』(川原 繁人、2023 年、ディスカヴァー21)

**世界一わかりやすい言語学の授業によろこそ！**

本書は、実際に著者が小学生を相手におこなった言語学の授業内容をまとめたものです。小学生の容赦のない質問や疑問に、言語学者が真っ向から答えていきます。「何かを教える」だけではなく、「一緒に考える」ことで進んで行く議論を見ていると、小学生の好奇心が溢れていることがわかります。世界一わかりやすく、楽しい授業にあなたも参加してみましょう！

→ 〈関連テーマ〉 音声、日本語による理解・思考・表現

[出版社サイト](#) ← Click!

『フキダシ論—マンガの声と身体』(細馬 宏通、2023 年、青土社)

**マンガも研究の対象になるんだ！**

一度でもマンガを読んだことがある人なら、フキダシの重要性がわかるでしょう。読み手は無意識のうちにフキダシによって、それが実際の発言なのか、心の声なのかなどを判断できたりします。フキダシの形や配置に注目しながらマンガを読んでいくと、マンガのさまざまな工夫が見えてきます。フキダシを切り口として、新たな見方を私たちに気づかせてくれる一冊です。

→ 〈関連テーマ〉 文字・表記、言語作品の言葉

[出版社サイト](#) ← Click!

『三省堂国語辞典から消えたことば辞典』（見坊 行徳・三省堂編修所 編、2023 年、三省堂）

### 「ドンキホーテ」「ファミコン」はいつ、なぜ消えたのか

国語辞典の新しい版が出ると、収録項目数や新しく加わった項目が話題になります。一方、本書は『三省堂国語辞典』（通称『三国』）とその前身の『明解国語辞典』から「消えた」（削除された）項目のうち 1,000 項目を取り上げ、解説したものです。個々の項目の説明を楽しむのはもちろん、国語辞典の編集方針に関する理解を深めることもできます。

→ 〈関連テーマ〉 語彙、日本社会と言葉

[出版社サイト](#) ← Click!

『日本語の逸脱文一枠からはみ出た型破りな文法(リベラルアーツ言語学双書 2)』

(天野 みどり、2023 年、教養検定会議)

### 「実際に小説に出てきた、でもよく見ると変な文」の正体

「生徒たちが諦めようとするのを、先生たちは何度も激励メッセージを送った」のような文法的に「逸脱的」な文を分析した本です。この種の文のどこが逸脱的で、どのような条件の下で逸脱できるのかを詳細に研究しています。冒頭の「内省判断調査」「実例観察」「言語意識調査」の解説は、文法研究の概説として参考になります。

→ 〈関連テーマ〉 文法・文章、日本語の研究方法

[出版社サイト](#) ← Click!

※ 教養検定会議のサイト「リベラルアーツ検定クイズ」内、「書籍刊行情報」をご覧ください。

『パズルで解く世界の言語—言語学オリンピックへの招待』

(風間 伸次郎監修・国際言語学オリンピック日本委員会、2023 年、研究社)

### 言語パズルを始めよう！

言語の背後にある法則を導きだす—そのような言語分析能力を競う大会があります。その名も「言語学オリンピック」。世界の言語をパズルのように解読し、隠された法則を見つけることを、あなたも体験してみませんか？ 言語学の予備知識は一切不要です！ 必要なのはじっくりと考え、言語を観察する能力です。言語好き、パズル好きは必見です！

→ 〈関連テーマ〉 文法・文章、外国語との比較や翻訳

[出版社サイト](#) ← Click!

## 『NHK 調査でわかった日本語のいま 変わる日本語、それでも変わらない日本語』

(塩田 雄大、2023 年、世界文化社)

### 意識調査から明らかになる、いまの日本語。あなたの感じ方は多数派？

ことばの「正しさ」は決められるのでしょうか？ さまざまな意識調査により、日本国民のことばへの考え方が明らかになります。読めば読むほど、日本語を「正しさ」で判断できなくなります。とまどうことば、気になることば、迷うことば…あなたが感じたことのあることばの疑問について、ほかの人がどのように感じているのかが、本書を読むとわかります。日本語の「いま」の姿を視覚的にも示す一冊です。

→ 〈関連テーマ〉日本社会と言葉、身近な言語の問題

[出版社サイト](#) ← Click!

## 『言語の本質—ことばはどう生まれ、進化したか (中公新書)』

(今井 むつみ・秋田 喜美、2023 年、中央公論新社)

### 「ことばとは何か」を突き詰める

日常生活にことばは欠かせないものです。なぜヒトだけがことばを持っているのでしょうか。子どもはどのようにことばを覚えるのでしょうか。本書は、オノマトペをひとつのキーワードとして、これらの問題に切り込んでいくものです。著者の二人がそれぞれの専門で考えてきたことをピースとして組み合わせ、「言語の本質」という大きなパズルが作られていく過程をぜひ楽しんでみてください。

→ 〈関連テーマ〉日本語による理解・思考・表現

[出版社サイト](#) ← Click!

## 『復刻版 言語オタクが友だちに700日間語り続けて引きずり込んだ言語沼』

(堀元 見・水野 太貴、2023 年、あさ出版)

### 君も、言語に沼って見ないかい？

『象は鼻が長い』の解説でバズった YouTube チャンネル「ゆる言語学ラジオ」の内容が書籍化されました。言語学者も観ている（出演もしている!?!）、この YouTube チャンネル！ 著者たちの軽妙なやりとりを楽しんでいるうちに、あなたも言語の沼にはまってしまうこと間違いなし！ この解説を読んでいるあなたも「言語沼の浅瀬」に足を踏み入れているということです。さあ、もう一步、沼に踏み込みましょう！

→ 〈関連テーマ〉日本語の研究手法、身近な言語の問題

[出版社サイト](#) ← Click!